



妊娠前検査のご案内

～安心して妊娠・出産を迎えるために～

女性側
検査内容

	検査項目	検査内容 (どんな検査ですか?)
子宮・卵巣の 状態を 調べる検査 	超音波検査	子宮筋腫や卵巣のう腫など、子宮や卵巣に異常がないかを調べます。
	AMH (抗ミュラー管ホルモン)	卵巣にどのくらい卵子が残っているか (卵巣予備能) を推測する検査です。
	子宮鏡検査・通水検査	子宮から卵管へ液体を流し、卵管の通り道に詰まりや狭くなっている部分がないかを 確認する検査です。卵管の通過性を調べることで、不妊の原因の一つを確認するこ ができます。
	子宮内妊娠環境検査	子宮内の細菌環境や炎症の有無などを調べ、赤ちゃんを迎えるための子宮内環境が 整っているかを確認する検査です。必要に応じて治療を行い、着床しやすい環境づく りにつなげます。
	脳下垂体ホルモン検査 (LH・FSH・PRL)	排卵に関わるホルモンの分泌量やバランスを調べます。
感染症を 調べる検査 	卵巣ホルモン検査 (E2)	卵巣から分泌される女性ホルモン (エストロゲン) の値を調べます。
	風疹抗体検査	風疹に対する免疫の有無を確認します。抗体がない、または低いと妊娠初期に風疹に 感染した場合、赤ちゃんに先天性異常が出る確率が高いため、妊娠前のワクチン接種 をおすすめします (接種後2か月間は避妊が必要です)。
	クラミジア抗体検査	卵管性不妊の原因となることがあるクラミジア感染の既往の有無を調べます。
	感染症検査 (B型肝炎・C型肝炎・ 梅毒・HIV)	母子感染の原因となる感染症の有無を確認します。必要に応じて治療や専門的な対応 を行います。
	マイコプラズマ・ ウレアプラズマ検査	感染すると不妊や、妊娠中の流産・早産のリスクにつながる可能性がある細菌の有無を 調べます。
	淋菌検査	淋菌感染の有無を確認します。放置すると骨盤内炎症を起こし、不妊の原因になるこ とがあります。
	HPV検査	子宮頸がんの主な原因となるヒトパピローマウイルス (HPV) 感染の有無を調べま す。
妊娠しやすい 体づくりのための 検査 	子宮頸がん検査	子宮頸部にがん細胞や前がん病変がないかを調べます。
	甲状腺ホルモン検査 (FT4・TSH)	甲状腺機能の異常 (低下・亢進) がないかを確認します。甲状腺の異常は不妊や流産 のリスクに関係します。
	ビタミンD	ビタミンD不足の有無を調べます。日本人女性の多くがビタミンD不足であることが 分かっています。ビタミンD不足は不妊との関連が知られています。
	フェリチン	月経血で鉄が毎月失われ、一方で鉄の摂取量が少ないと鉄欠乏性貧血となります。鉄 不足による、いわゆる「隠れ貧血 (鉄不足)」がないか確認します。
	ホモシステイン	葉酸不足の指標となる検査です。値が高いと、不妊や胎児の発育、妊娠中の合併症と の関連が指摘されています。
LOX検査	最先端の妊娠力検査です。自然妊娠の可能性が血液検査でわかります。	
一般健康診断検査	貧血、糖尿病、肝機能、腎機能、栄養状態など、妊娠に向けた全身の健康状態を確認 します。	

♡ 妊娠前検査について ♡

妊娠前にご自身の健康上状態を確認することで、安心して妊娠・出産を迎える準備につながります。
必要に応じて治療や生活習慣の見直しを行い、赤ちゃんを迎えるための身体づくりをサポートします。
検査項目は、年齢や既往歴、ご希望に応じて追加・変更することがあります。
詳しくは医師・スタッフまでお気軽にご相談ください。

※検査内容や費用については医療機関によって異なります。ご不明な点はお気軽にお問い合わせください。